

# 総合人間科学 英 語

## 1 構 成 員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（ 0人）
助教（うち病院籍）	0人（ 0人）
助手（うち病院籍）	0人（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（ 0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人（外国人教師）
合 計	2人

## 2 教員の異動状況

- 遠藤 幸英（教授）（H14. 5. 1～現職）  
 中安美奈子（准教授）（H19. 8. 1～現職）  
 O'Dowd, Gregory V.G.（外国人教師）（H14. 4. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4編（ 1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（ 0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 遠藤: 寺山演劇と黒の象徴性ークログ論序説,寺山修司研究 創刊号, 2007.
2. O'Dowd, G: Australia and Nuclear Power: the Jekyll and Hyde nature of Australia's nuclear ambitions. Studies in International Relations, Nihon University, Mishima, Japan. Vol.28, No.2: 107-127, 2007.
3. O'Dowd, G: Lafcadio Hearn's Views on the rise of nationalism in Meiji Japan and their relevance today. Studies in International Relations, Nihon University, Mishima, Japan. Vol.28, No.3: 155-174, 2007.
4. O'Dowd, G: Building a Medical Vocabulary: A Guide for Medical Students. Reports of Liberal Arts Hamamatsu University School of Medicine, No.22, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Nakayasu M: Toward a Cognitive Explanation of Japanese Noun Modification. Ikegashi Y, Eschbach-Szabo V, Wlodarczyk A (eds.): Japanese Linguistics European Chapter, Tokyo: Kuroshio Publishers: pp. 261-270, 2007.

4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件

(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 前衛演劇と伝統演劇の出会い

寺山修司は1970代の国際的演劇界で前衛の旗手の一人として注目を浴びた。寺山が日本の古典演劇の仕掛けである「黒衣」を現代前衛劇に蘇らせた異議について、同じテーマを論じた英文博士論文を発展させる形で書き進めている。

（遠藤幸英）

### 2. 初期近代英語における法助動詞

シェイクスピアをコーパスとしてSHALL, WILL, SHOULD, WOULD及び縮約形LL語用論的な視点から記述・分析した。言語行為等のマイクロ語用論に属するもののみならず、ポライトネス、会話や談話等、マクロなレベルに踏み込んだ分析を行った。平成19年度はこの研究成果を出版する準備をすすめた。

（中安美奈子）